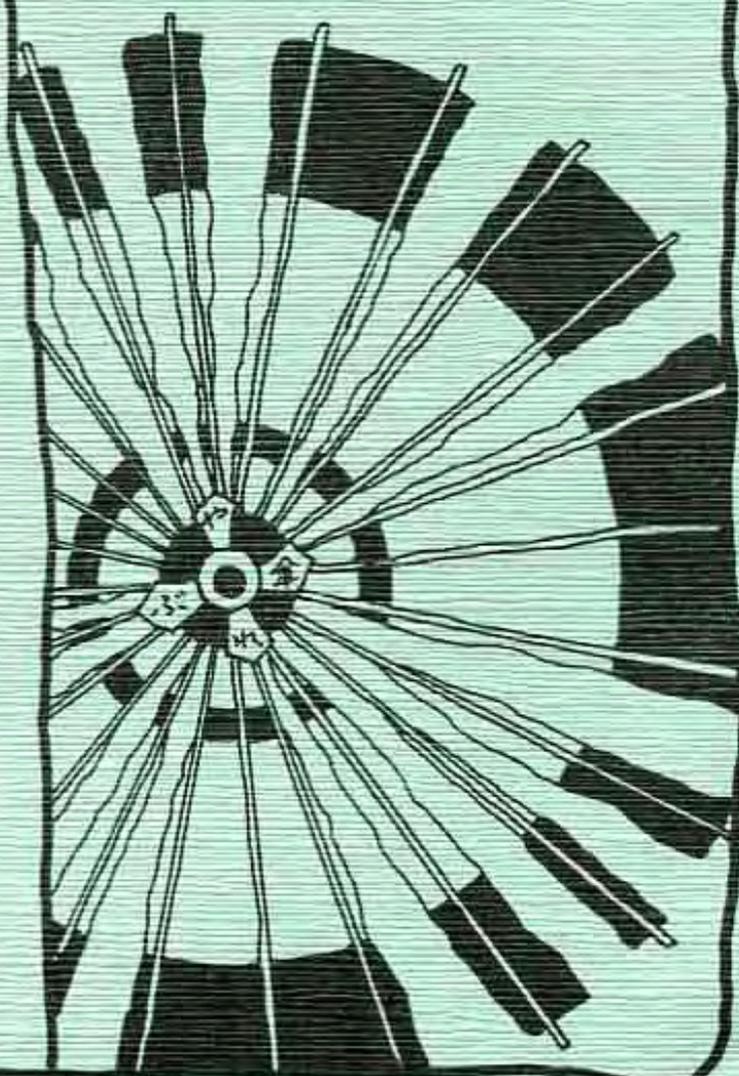


やぶれ傘



九十四号

二〇二七年二月

数へ日の糸曳いてゐるセメタイン 根橋宏次

冬萌は雨後のあをさとなりにけり 大島英昭

冬の夜の真ん中にあるお猪口かな きくちきみえ

小上がりに餅花飾るそば屋かな 廣瀬雅男

冬晴れの空へ三角屋根ばかり 渡邊孝彦

チエロ弾きの皿へチップを四温の日 丑久保 勲

鳥総松かつて商人<sup>かきんど</sup>泊めし宿 瀬島酒望

旧意匠復刻列車冬の月 小山陽子

日脚伸ぶ縁に広げてヨガマット 青谷小枝

雪だるまほつたらかにされてをり 白石正躬

四日午後近所の宮に詣でけり 藤井美晴

自家用のひと畝のこる葱畑 菊池洋子

風邪おして子は正眼に構へをる 秋山信行

春隣洗濯物は揺れてゐる 天野美登里

テーラーの窓に冬服裏通り 安藤久美子

抄 集 句 傘 ぶ れ や  
選 夫 紀 崎 大

行く年を惜しみゆつくり髭を剃る 久世孝雄

小春日やボール蹴り蹴り子等が来る 有賀昌子

飛行機雲冬の入日へ延びゆけり 松村光典

逃げてゆく冬日に急ぐ針仕事 山本久枝

初詣孫の願ひをそつと聞く 浅嶋 肇

熱燗やいつもの数で席を立ち 安斉正蔵

冬の海網の干さるる番屋裏 石塚清文

電線を並木に括り年の市 大野芳久

來客の靴の向き変へ冬ぬくし 岡田香緒里

鯛焼きの温もりを待つ列に入る 小池一司

七草や三勺ほどの米を磨き 齋藤朋子

山茶花や犬の墓標は石ひとつ 佐々木あつ子

こまごまと予定書きあり古曆 橋本美代

声かけて焚火の列に入りけり 広瀬 濟

とげぬきに参る度買ふ冬帽子 本郷美代子

寒牡丹

大崎紀夫

物置に鐘と曲尺小六月  
一刀流道場前は葱畑  
馬穴あり底に海鼠の五つ六つ  
二階へとのぼれば炭火にほひけり  
さざなみの向う岸よりくる冬至

自転車でピエロが帰る冬の星  
冬たんぽぽ空地に砂利の積まれゆく  
坐るのはガスストーブの斜め前  
カーテンに冬の蠅虎ぽつん  
朝市の野菜に雪は降りにけり  
着ぶくれてゐるおばさんの干物買ふ  
人影の時折かかる寒牡丹

数へ日

根橋宏次

目の前の山がまつくら牡丹鍋  
後退りしながら抜ける焚火の輪  
数へ日の糸曳いてゐるセメダイ  
建前の紙垂に風花きたりけり  
帰りしな切山椒を買ひもして  
腹すこし太めのラガードライ  
冬萌は田んぼのへりになかほどに  
かいつぶり浮きくるやもと待つつもり  
田に降りてちらばる雀春隣  
白波は湾のどこにもどんど焼

冬 菜

大島英昭

映画観て鰻頭を買ふ日短  
自転車の母は子に乗せ朴落ち葉  
くさめしてをれば大型バイク過ぐ  
白菜の道に近きがまづ採られ  
冬萌は雨後のあをさとなりにけり  
道標に日差しありけり枯木立  
農協に室咲きを買ひ卵買ひ  
ここよりは十一丁目冬菜畑  
宅配の車が曲る寒椿  
うどん屋をやめて冬菜を売つてゐる

冬の夜

きくちきみえ

冬の夜のポケットの宝くじ  
雪ばんば工事現場に水溜まり  
飼ひ猫に苗字ありけり日向ぼこ  
柚子湯出て背中大きくなつてゐる  
冬の夜の真ん中にあるお猪口かな  
箸一膳洗ひながらに年越せり  
焼き網に中心のあり餅を焼く  
生命線コートの袖に消えにけり  
夏蜜柑洗はれキズの現はるる  
白鳥の潜り切れざる尻の先

餅 花

廣瀬雅男

自転車の籠をはみ出す大根かな  
短日の川は岸より暮れゆけり  
池の面は日向ばかりや浮き寝鳥  
水鳥は水を離るる時に鳴き  
冬の田に鳥あるやうに屋敷林  
遠富士に日の沈みゆく冬至かな  
でかき鈴がらりと鳴らし初詣  
小上がりに餅花飾るそば屋かな  
飛び石に来て弾みたり寒雀  
ウオーキングシューズ新し犬ふぐり

冬晴れ

渡邊孝彦

日曜の日暮れの街の冬木道  
冬晴れの空へ三角屋根ばかり  
朝時雨寺町めぐるバスを待ち  
吹き抜けと箱階段の家寒し  
棕櫚製の棒束子買ふ年用意  
雪吊りの木々や足軽資料館  
そここのこの畑に焚火の煙かな  
寒梅や箒積まれし猫車  
寒すずめ金網ぐぐり草やぶへ  
蠟梅は農家の母屋すぐ先に

水仙

丑久保勲

画廊へとドア押して入る小春かな  
停車する貨車がちやがちやと日短か  
宅配車銀杏黄葉の下に着き  
白菜の穫り残されてゐる畑  
青々と寄生木からみゐる枯木  
数へ日の小<sup>ぼ</sup>火<sup>や</sup>に二台の消防車  
シクラメンコーヒー店のレジ横に  
草むらの水仙の黄の五つ六つ  
お向かひは三階建てに寒椿  
チエ口弾きの皿へチップを四温の日

鳥 総 松

瀬 島 洒 望

浮き雲や茶の咲いてゐる女坂  
筑地塀沿ひの松並菰巻かれ  
売り物はカヌーが二艘小六月  
種明かす手品が受けて年忘れ  
タクシーに空車の表示冬霞  
ラフランス孫に剥かせてみたりけり  
寒晴れや厩舎の藁を陽に曝し  
寒晴れやざる蕎麦の簀の干されゐて  
初売りの中古仏壇山積み  
鳥 総 松 かつて商人泊めし宿

冬の月

小山陽子

旧意匠復刻列車冬の月  
半月の落ちてきさうな寒さかな  
乗る杭を奪ひ損ねし百合鷗  
冬帽子抱つこされればご機嫌に  
溜息の不意な大ききさ十二月  
煮南瓜のひと切れ硬き冬至かな  
足指の冷たし足の爪切れば  
お守りを三つ着けたらコート着て  
冬日差洗濯物が揺れてゐる  
大噓店が一瞬シンとなる

日脚伸ぶ

青谷小枝

塩 引 きの 縄 の 荒 々 町 に 風  
鮭 を 干 す ぐ わ し ぐ わ し 塩 を 摺 り 込 ん で  
冬 灯 す す り て 太 き 魚 の 骨  
訳 も な く 潰 す ぷ ち ぷ ち 冬 の 夜  
掘 炬 燵 一 日 古 き 映 画 見 て  
初 雪 や 真 赤 な 花 を 窓 に 置 き  
雪 の 夜 は ド ー ル ハ ウ ス に 灯 を 入 れ て  
革 ジ ャ ン の 右 ポ ケ ッ ト に ラ ム ネ 菓 子  
池 の 面 に ゆ れ て 羽 毛 と 冬 日 差  
日 脚 伸 ぶ 縁 に 広 げ て ヨ ガ マ ッ ト

雪だるま

白石正躬

たそがれの冬の土手行く人見えて  
枯れ芒ほほけて風を流しけり  
ときに来て鳥のついはむ実南天  
夕日中白佗助の五つ六つ  
里山は陽をとどめゐて笹子鳴く  
マスクして犬にひかれて行く散歩  
水仙を一本挿せる花瓶かな  
雪だるまほつたらかしにされてをり  
切干を廊下に並べ天日干し  
日の当たる校舎の壁や日脚伸ぶ

## ◇ 3月・4月の句会案内

月	日	時	句会名	会場	連絡先
3月	1日(水)	PM7:00	ぎんなん会	浦和コミセン3	丑久保 勲
	3日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	3日(金)	PM6:00	なごみ会	武蔵浦和コミセン	丑久保 勲
	7日(火)	AM9:00	こなから会	あいバル	國保八江
	7日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン9	瀬島 孟
	18日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	25日(土)	AM10:00	楽天会	あいバル	廣瀬雅男
	26日(日)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室
4月	3日(月)	PM7:00	ぎんなん会	浦和コミセン3	丑久保 勲
	4日(火)	AM9:00	こなから会	あいバル	國保八江
	4日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン3	瀬島 孟
	7日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	7日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン3	丑久保 勲
	15日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	16日(日)	AM10:00	吟行会(下記注)	横浜・大棧橋	丑久保 勲
	22日(土)	AM10:00	楽天会	あいバル	廣瀬雅男
	23日(日)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室

〔注〕 ぎんなん会は奇数月は第1水曜、偶数月は第1月曜です。

3月3日(金)のなごみ会は武蔵浦和コミセン3です。

4月16日(日)の吟行。集合は10時。集合場所はJR根岸線・関内駅南口改札口(東京から来て一番前)。吟行地は、横浜の大棧橋・山下公園・港の見える丘公園。句会場は、神奈川近代文学館。

◎連絡先

瀬島 孟	☎ 048-862-2757	藤井美晴	☎ 0422-55-2733
大島英昭	☎ 048-592-5041	WEP編集室	☎ 03-5368-1870
廣瀬雅男	☎ 048-443-7522	浦和コミセン	☎ 048-887-6565
丑久保 勲	☎ 048-853-3856	WEP俳句教室	WEP編集室へ